

陸軍懲罰令講義

全

山本道太郎著

川流堂發行



特 2

036348-000-5

特65-230

陸軍懲罰令講義

山本 道太郎/著

M36

BBQ-0050





序

是ノ書ハ學者先輩ノ研鑽ニ裨益アラシメント欲ス  
 ニ非ヌ其目的ハ陸軍懲罰令ノ意義ヲ簡明ニ說述  
 年志願兵、士官候補生、下士候補生、上等兵候補者等ノ自修  
 便益ヲ供セントスルニ止マル

故ニ法ノ概念刑罰並ニ處罰權ノ性質等法科専門ノ事ニ  
 關シテハ斯學先輩ノ所說ヲ傳ヘ軍隊諸制度ニ關シテハ隊  
 ノ上官ニ解釋ヲ乞ヒ漫リニ自家ノ說ヲ固執スルヲ避ケ簡  
 易ヲ旨トシテ本令ノ意義ヲ講ス

著者ノ淺學寡聞ナル尙將來ノ修正ヲ要スルモノ多カラ  
 ン短ヲ捨テ長ヲ採リ以テ前記諸士研究ノ材タルヲ得ハ幸甚





明治三十六年十一月下浣

著者識

# 陸軍懲罰令講義

## 目次

### 第一章 總論

第一節 刑法ノ概念

第二節 懲罰令ノ性質

第三節 陸軍刑法ト陸軍懲罰令トノ差異

### 第二章 法例

第一節 軍人

第二節 懲罰權



第一款	聯隊長以下ノ刑罰權限	一一
第二款	軍隊々長以外ノ刑罰權限	一五
第三節	犯罪	一七
第一款	犯行者ノ移轉	一八
第二款	數罪俱發	一九
第三款	戰時ニ於ケル處分	二〇
第四款	免罰輕減	二三
第三章	罰令	二三
第一節	刑ノ性質	二三
第二節	罰目	二五
第一款	謹慎	二六

第二款	營倉	二八
第四章	犯行	三三



# 陸軍懲罰令講義

## 第一章 總論

### 第一節 刑法ノ概念

山本道太郎著

一團ノ人類集合シテ一定ノ權力ニ服従スルヤ各人ハ此團體ノ安寧秩序ヲ保テ決シテ是ヲ害セサルヲ要ス若シ其安寧秩序ヲ害スルカ如キ行爲アルヤ國家ハ正理上ノ應報トシテ又其利益トシテ是ニ制裁ヲ加ヘサルヘカラス茲ニ此制裁ヲ定メタル法律ノ必要起ル刑法ハ國民即チ國家ヲ構成スル團體員ノ行爲カ犯罪トナルヘキモノヲ定メ併セテ



其、匪、行、ニ、對、ス、ル、制、裁、ヲ、定、メ、タ、ル、法、律、ナ、リ、然、ラ、ハ、刑、法、ハ、公、法、タ、ル、ハ、勿、論、主、法、ナ、リ、而、シ、テ、刑、法、ニ、(一)普、通、刑、法、(二)特、別、刑、法、ノ、二、種、ア、リ、大、日、本、刑、法、ノ、如、キ、ハ、一、般、日、本、國、民、ノ、犯、罪、行、爲、及、其、制、裁、ヲ、規、定、ス、故、ニ、普、通、法、タ、ル、ハ、明、カ、ナ、リ、之、ニ、反、シ、軍、人、ノ、犯、罪、行、爲、及、其、制、裁、ヲ、規、定、セ、ル、陸、軍、刑、法、ハ、特、別、法、ナ、リ、是、レ、軍、人、ト、云、フ、特、別、ノ、職、務、ニ、在、ル、人、カ、軍、隊、ト、言、フ、特、別、團、體、ノ、安、寧、秩、序、即、チ、軍、紀、規、律、ヲ、亂、シ、タ、ル、ト、キ、其、匪、行、並、ニ、是、ニ、加、フ、ル、制、裁、ヲ、規、定、シ、タ、ル、モ、ノ、ナ、レ、ハ、ナ、リ、抑、モ、軍、人、ニ、シ、テ、軍、紀、ヲ、亂、シ、規、律、ヲ、破、ル、カ、如、キ、匪、行、ア、ル、ト、キ、ハ、軍、隊、ハ、其、犯、人、ニ、對、シ、刑、法、上、ノ、制、裁、ヲ、加、ヘ、サ、ル、ヘ、カ、ラ、ス、是、(一)正、理、上、其、應、報、ヲ、與、フ、ル、ト、(二)軍、隊、ニ、軍、紀、及、秩、序、ヲ、

維、持、セ、シ、ム、ル、爲、メ、制、裁、ヲ、加、フ、ル、ト、ノ、二、箇、ノ、理、由、ニ、基、ク、モ、ノ、ナ、リ、而、シ、テ、軍、人、ノ、匪、行、ニ、三、種、ア、リ、(一)重、罪、(二)輕、罪、(三)懲、罰、令、ニ、適、應、ス、ル、犯、行、是、ナ、リ、此、内、重、罪、輕、罪、ニ、該、當、ス、ル、モ、ノ、ハ、陸、軍、刑、法、ノ、預、ル、處、ニ、シ、テ、刑、法、ニ、該、ラ、サ、ル、故、意、疎、虞、懈、怠、過、失、ニ、ヨ、リ、テ、輕、犯、ヲ、犯、セ、シ、者、及、素、行、修、マ、ラ、ス、軍、人、ノ、體、面、ヲ、汚、ス、者、ハ、陸、軍、懲、罰、令、ニ、ヨ、リ、テ、上、官、之、ヲ、處、罰、ス、

### 第二節 懲罰令ノ性質

陸、軍、懲、罰、令、ハ、其、第、一、條、ニ、定、義、ヲ、與、ヘ、タ、ル、カ、如、ク、軍、人、ノ、故、意、疎、虞、懈、怠、過、失、ニ、ヨ、ル、輕、犯、ニ、シ、テ、刑、法、ニ、該、ラ、サ、ル、者、及、素、行、修、マ、ラ、ス、軍、人、ノ、體、面、ヲ、汚、ス、者、ア、ル、時、上、官、是、ヲ、懲、戒、ス、ル、



ハ、罰典トス(第一條參照)而シテ其匪行者ニシテ處分ヲ受ル  
 トキハ假令不當ト思フモ決シテ辯解ヲ許サス直ニ之ニ服  
 從スヘキモノナリトス(軍隊內務書第二章第五條末項參照)要之懲罰令  
 ハ犯行中最モ輕キモノヲ罰スルモノニシテ此處罰權ヲ有  
 スルモノハ其所屬隊長ナリトス但シ軍人ト言フモ只軍人  
 ト云フ一種ノ職責ヲ有スルモノ、ミナレハ其他ノ點ニ於  
 テハ一般國民ト異ナル事ナク陸軍刑法陸軍懲罰令ニ規定  
 アル以外ノ事ハ他ノ法律規則ニ依テ支配セラル例ヘハ債  
 務アリテ是ヲ其期限ニ辨償セサルトキハ民法上ノ制裁ヲ  
 受クルガ如シ而シテ茲ニ注意スヘキハ此種ノ特別法ハ特別  
 ノ職責ニアル者ノ外適用スヘキモノニ非ス即チ後備役ニ

在ル軍人(召集中ニ在ラス)カ罪ヲ犯シタルトキハ普通刑法  
 ノ適用ヲ受ケ違警罪ニ觸ル、者ハ其規定ニ從フモノトス

第三節 陸軍刑法ト陸軍懲罰令ト

ノ差異

第一 其性質ヲ異ニス、刑法ハ軍人ノ匪行ニシテ重罪輕  
 罪ニ該當スルモノ並ニ其制裁ヲ規定セル法律ニシテ懲罰  
 令ハ陸軍刑法ニ該ラサル輕犯並ニ其制裁ヲ規定セルモノ  
 ナリ

第二 其適用スヘキ刑ノ種類ヲ異ニス、陸軍刑法ニ在テ  
 ハ(一)死刑 (二)無期徒刑 (三)有期徒刑 (四)無期流刑 (五)有







ル者ハ其刑ノ確定シタル時ヨリ其刑期間ノ日數ハ現役勤務日數中ニ算入セス普通兵卒ノ場合ニ三ケ年ノ勤務日數ニテ本年十一月末日除隊セラル、者モ猶明年九月ニ至ラサレハ滿期除隊セラル、事ヲ得ス是ヲ償勤ト言フ懲罰令ニ在テハ假令三十日間重營倉ノ處分ヲ再三受クルトモ償勤スル事ナシ但シ孰レノ場合ニ在テモ自己ノ成績ニ關係ヲ及ホスハ言フヲ俟タス

第四 司法者ヲ異ニス 陸軍刑法ニ該當スル罪人ハ直ニ之ヲ陸軍軍法會議ニ附シ同會議ノ審査判決ニ依テ刑ノ適用ヲ受クルモノナレトモ懲罰令ニ在テハ軍法會議是ニ與ラス部隊ノ長官其權限ニ應シテ判決處分ス

## 第二章 法 例

### 第一節 軍 人

軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條ニ規定シテ曰ク軍人ト稱スルハ將校及同相當官下士諸兵卒ヲ謂フト然ラハ本令ニ依テ處罰セララル、者ハ是等ノ人タルハ明ナリ然ルニ本令ハ其第九條ニ於テ軍人ト均シク本令ノ適用ヲ受クル者ヲ規定セリ即チ軍屬及陸軍所屬ノ諸生徒等トス茲ニ軍屬ト稱スルハ刑法第四條ニ規定アリ即チ陸軍出仕ノ文官其他總テ宣誓若クハ讀法ノ式ニ由リ陸軍ニ從事スル者ヲ言フ又學生トハ陸軍士官學校砲兵工科學校幼年學校獸醫學校軍



樂學校等ノ生徒ヲ言フ是等ノ人ハ軍人ト均シク本令ノ適用ヲ受クルモノニシテ其資格ニ於テハ軍屬高等官(例ヘハ奏任官ニシテ陸軍ニ屬スル文官例ヘハ理事ノ如キモノ)ノ如キハ將校ト同シ判任官(例ヘハ高等官ニアラスシテ陸軍ニ屬スル文官即チ録事書記ノ如キモノ)ハ下士ト均シク諸生徒及其他劣級ノ軍屬例ヘハ小使馬丁ハ諸卒ニ準シテ處分ヲ受クルモノトス

## 第二節 懲罰權

軍人カ犯行アルトキハ軍隊ハ正理上其應報トシテ刑罰ヲ加ヘサルヘカラス是既ニ述ヘタルカ如シ要之刑罰權ハ基

礎ハ刑法學者ノ所謂折衷主義ニ存スルモノナリ而シテ普通刑法ニ於テハ國家ハ其刑罰權ヲ裁判所ニ於テ判事ニ司ラシム軍隊ニ在テハ軍法會議ニ委スルヲ通例トスレトモ刑法上ノ犯行ニ非ナル輕犯ハ軍法會議之ニ與ラス違警罪カ通常行政官ニ依テ司ラル、カ如ク懲罰令ハ其懲罰權ヲ各部隊ノ長官ニ委ス而シテ此令ニ依テ部下ヲ懲戒スル權利ヲ有スル人ハ各所管ノ長官軍團長師團長旅團長及衛戍司令官等(第二條參照)トス例ヘハ聯隊ニ在テハ中隊長大隊長聯隊長其部下ヲ懲戒ス

### 第一款 聯隊長以下ノ刑罰權限

各部隊ノ隊長ハ均シク其部下ヲ懲戒スルノ權アリ乍併其



階級ニ依テ刑罰權限ヲ異ニス

(イ) 聯隊長ハ其部下ノ上長官士官下士兵卒等ニ對シ三十日以内ノ謹慎營倉ヲ命スル事ヲ得(但シ士官以上ニハ營倉ノ罰ナク下士以下ニハ謹慎ノ罰ナシ)

(ロ) 大隊長ハ部下ノ士官ニ對シ十日以内ノ謹慎ヲ命シ下士ニ對シテハ二十日以内ノ營倉兵卒ニ對シテハ三十日以内ノ營倉ヲ命スル事ヲ得

(ハ) 中隊長ハ部下ノ下士ニ對シ十日以内ノ營倉兵卒ニ對シテハ二十日以内ノ營倉ヲ命スル事ヲ得

要之中隊長ハ其部下ニ中尉少尉見習士官特務曹長等アレトモ是等ノ人ヲ罰スル事ヲ得是等ノ人ハ大隊長以上ニ



欠

MISSING



但シ「營外居住ノ者ハ囚獄ノ監倉ニ錮シ猶附加罰トシテ減俸セララル、モノトス而シテ其禁錮日數ハ一日以上三十日以下ナリ

營倉ハ謹慎ノ場合ト等シク其犯行ノ輕重即チ有意犯ト無意犯トニ依リ重營倉輕營倉ノ二種アリ

第二 重營倉ト輕營倉ノ差異 (一)重營倉トハ演習ノ外勤務ヲ停メ營倉ニ錮シ唯飯及湯ト鹽ノミヲ給シ寢具ヲ與ヘサルヲ常トシ(第十八條第一項)營内居住者ハ減給十分ノ八營外居住者ハ半額ヲ減セララル、モノトス(第二十一條)但シ重營倉ノ者ト雖天候極寒ニシテ身體ニ異常ヲ生スヘキトキ又ハ疾病ニ罹リタルトキ等ノ場合ニ在テ醫官カ寢具ヲ給



スル必要ヲ證シタルトキハ是ヲ貸與スル事アリ(第十八條 第二項)

重營倉ハ斯ク暗黒ノ室内ニ入レ食物モ粗ニシテ寢具モ與ヘラレサル爲メ大ニ健康ヲ害スルノ恐アリ故ニ三日以上禁錮セラル、場合ニハ各七十二時ノ内二十四時間ハ是ヲ輕營倉ニ移シ寢具ヲ與ヘ常食ヲ給與ス(第十八條但書)

(二)輕營倉ハ演習ノ外勤務ヲ停メ營倉ニ錮シ營内居住ノ者ニ對シテハ減給十分ノ六營外居住ノ者ハ其四分ノ一ヲ命セラル(第二十二條第二項)猶諸卒ニ在テハ犯行ノ情狀ニ因リ罰限滿ルノ後三十日以内仍ホ其佩劍ヲ禁スル事ヲ得(第二十六條)ルハ重營倉ノ場合ト等シ

要之ニ兩者ノ差異ハ其食物ノ點ト減俸ノ點トニアリ重營倉ノ場合ニハ唯食湯及鹽ノミナレトモ輕營倉ノ場合ニハ一般兵卒ト同シ食物ヲ給セラル減俸ノ場合ハ十分ノ八及營外居住者ナレハ半額ナレトモ輕營倉ニ在テハ十分ノ六營外居住者ナレハ四分ノ一ナリトス又重營倉ノ場合ニハ寢具ヲ給與セサルモ輕營倉ナレハ之ヲ給與スルモノトス

第三 特典 犯行ノ性質及犯人ノ平常ノ行蹟ニ依リテ營倉ニ禁錮スルハ酷ニ失スルノ恐アリ故ニ本令ハ其第二十二條ニ於テ特ニ是等ノ犯行者ニ對シ代罰ノ道ヲ設ク其規定ニ依レハ營倉ニ處スヘキ者ニシテ下士上等兵陸軍諸生



徒及ヒ營外居住者ハ禁足ニ在營一二等卒輸卒看護卒ハ苦役ニ換フル事ヲ得トス但シ其禁足苦役ニ換フル場合ハ其日數ハ重營倉ノ一日ヲ禁足或ハ苦役ノ三日ニ輕營倉ハ其一日ヲ二日ニ折算スルモノトス

(二)禁足 禁足ハ勤務演習ノ外營外ニ出ルヲ禁シ營内居住ノ者ハ其俸給十分ノ二ヲ減ス但シ營外居住者ハ別段ノ規定ナケレハ減俸セラル、事ナシ猶營外居住ノ者カ禁足ヲ命セラレタルトキハ勤務演習ノ外他出スル事ヲ得ス但シ水火災地震疾病等アルトキハ第十六條ヲ準用シ防救遷徒シ又ハ醫ヲ延ク事ヲ得

(三)苦役 苦役ハ營内居住ノ兵卒ノミニ處スル刑罰ニシテ

勤務演習ノ外營外ニ出ル事ヲ禁シ營倉掃除其他雜役ヲ司ラシムルモノトス(第二十五條)

### 第四章 犯行

本令ニ於テ犯行ト目スヘキモノハ第二十七條ニ規定ス其款目左ノ如シ

- 一、職務ノ權限ヲ誤ル者
- 二、訓導ノ道ヲ失フ者
- 三、上申下達其他定期アル時日ヲ稽緩スル者
- 四、文書計算ヲ誤ル者
- 五、命令ヲ誤リ若クハ之ヲ誤リ傳フル者



- 六、物件ノ調製貯藏運搬支給ヲ誤ル者
- 七、職役若クハ屯營本隊ヲ離ル、者
- 八、他方ニ赴キ歸着ノ期ニ後ル、者
- 九、行軍ニ際シ發程及ヒ乘艦ノ期ニ後ル、者
- 十、召集ノ期ニ後ル、者
- 十一、受寄ノ財物若クハ借用物ヲ典却スル者
- 十二、官物ヲ擅用スル者
- 十三、法則命令ヲ遵奉セス若クハ是ヲ謗誹スル者
- 十四、罵詈侮慢若クハ鬪爭スル者
- 十五、暴行脅迫スル者
- 十六、猥ヲニ劍ヲ拔ク者

- 十七、酩酊シテ事ヲ省セサル者
- 十八、言語所爲詐僞ニ涉ル者
- 十九、疾病事故ニ託シ勤務演習ヲ免レントスル者
- 二十、抗言恃頑從順ノ道ヲ失フ者
- 二十一、犯行アルヲ知テ之ヲ曲庇スル者
- 二十二、勤務演習集合ノ期ニ後レ若クハ是ヲ缺キ若クハ是ヲ懈ル者
- 二十三、服裝法ニ違フ者
- 二十四、敬禮ヲ闕ク者
- 二十五、官給ノ物件措置拭拂法ニ違フ者
- 二十六、物件ヲ誤毀遺失若クハ汚損スル者



二十七、失言過語若クハ應答ノ事理ヲ誤ル者  
二十八、軍人ノ態度ヲ失フ者  
二十九、上ニ掲クル犯目ノ外素行修マラサル者

陸軍懲罰令講義畢

明治三十六年十二月二日印刷  
明治三十六年十二月四日發行

(陸軍懲罰令講義與附)

著作慶應義塾  
理財學士 山本道太郎

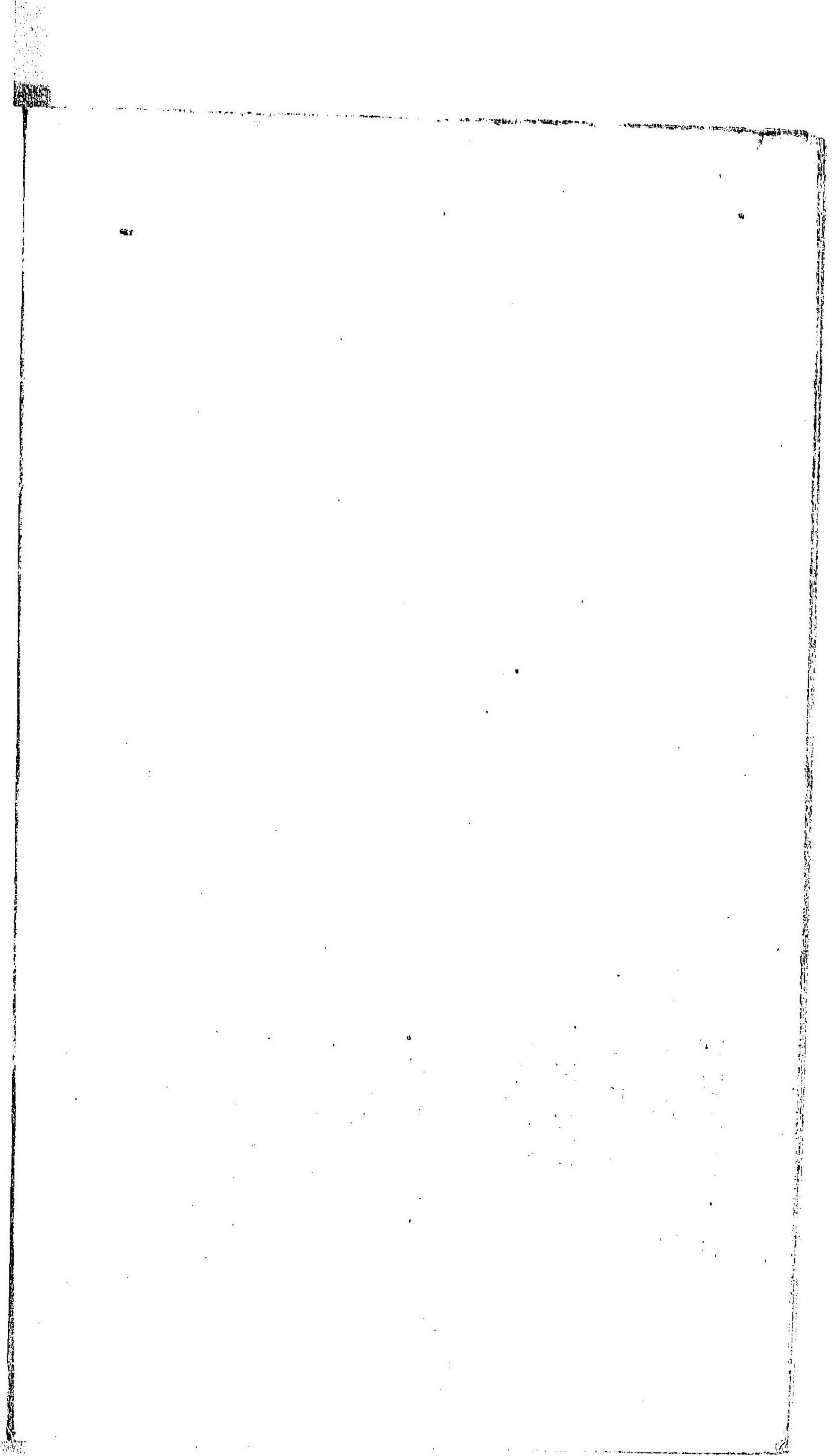
發行兼印刷者 川流堂 小林又七  
(電話本局三千二十番)

東京市京橋區五郎兵衛町二十一番地

印刷所 同 陸軍省構内 小林又七出張所  
(電話新橋九百四十二番)

發賣所 同 麹町區隼町二十一番地 小林又七支店  
(電話番町百九十二番)







35

30